

経営発達支援事業評価シート【令和7年度版】

Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

評価A：目標以上の実績、評価B：概ね目標に近い実績、評価C：概ね目標の半分程度の実績、評価D：ほぼ実績なし

認定計画の事業内容 ※認定計画の事業内容を全て記載すること	本年度 補助金 活用	目標数値（過年度は実績値）					本年度実績		実施内容ともたらされた効果や今後の対応等	次年度 補助金 活用有無	評価委員のコメント （評価・見直し等の意見）	
		R03	R04	R05	R06	R07	実績値	自己評価				
1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること												
金融機関との連携及び 情報交換	—	1回	2回	2回	2回	2回	2回	A	実施内容 （補助金活用含む）	日本政策金融公庫旭川支店が主催するマル経協議会へ参加し、小規模事業者の資金需要に対応した金融支援や地域経済の動向について情報交換を行うとともに、円滑で効果的な金融支援体制の構築に向けた協議を実施した。また、旭川信用金庫と連携し、当麻町事業者の販路開拓支援として旭川駅構内で開催された「駅マルシェ2025」への出展を実施した。	—	
									もたらされた 効果や課題	金融機関との情報共有を通じて、事業者の経営状況や資金需要に応じた適切な融資制度の紹介・斡旋を行うことができ、小規模事業者の資金繰りの円滑化に繋がった。また、旭川信用金庫との連携により「駅マルシェ2025」への出展機会を確保し、町内事業者の販路拡大や新規顧客の獲得に繋げることができた。今後は、より多くの事業者が金融支援や販路開拓支援を活用できるよう、さらなる連携強化が求められる。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	今後も日本政策金融公庫、北洋銀行、旭川信用金庫の3金融機関との連携を継続し、地域経済や金融施策に関する情報交換を行うとともに、事業者の経営課題や資金需要に応じた金融支援を実施していく。また、金融機関とのネットワークを活用し、商談会や物産展等への出展機会の創出など、販路開拓支援の充実を図り、小規模事業者の持続的な発展に繋げていく。		
近隣商工会との連携及び 情報交換	—	5回	8回	4回	4回	8回	6回	B	実施内容 （補助金活用含む）	石北四町市場協議会において経営支援会議を5回開催し、各商工会が取り組んだ経営支援事例や補助金支援、事業者支援に関する課題等について情報交換を行うとともに、支援ノウハウの共有を実施した。	—	
									もたらされた 効果や課題	各商工会の支援事例や課題への対応方法を共有したことで、職員の支援能力の向上や支援手法の充実を図ることができた。一方で、エネルギー価格や物価の高騰に加え、賃上げへの対応など、小規模事業者を取り巻く経営環境が大きく変化し、各商工会における個別支援業務が増加したことから、会議開催回数は目標の8回に対し5回に留まり、目標を達成することができなかった。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	引き続き石北四町市場協議会において定期的な経営支援会議を開催し、エネルギー価格・物価高騰や賃上げ対応など、小規模事業者を取り巻く環境変化や経営課題への支援事例や支援手法について情報交換を行うことで、職員の支援ノウハウの蓄積と支援力の向上を図る。また、年間の開催計画をあらかじめ調整するなど、開催体制を見直し、目標回数の達成に努める。		
専門家との連携及び情 報交換	—	3回	3回	12回	12回	3回	15回	A	実施内容 （補助金活用含む）	事業計画策定、補助金申請、販路開拓、DX推進、事業承継など、小規模事業者が抱える経営課題の解決に向け、専門家と連携したセミナーや個別相談会を実施すると共に、専門家による個別支援へ職員が同行し、支援手法や課題解決の進め方について情報共有を行った。	—	
									もたらされた 効果や課題	専門家が有する高度な知識や支援ノウハウを共有することで、複雑・高度化する経営課題への対応力が向上し、職員の資質向上と支援能力の強化を図ることができた。また、多様な経営課題に対して迅速かつ効果的な伴走支援を行うことができた。今後も専門家の知見を積極的に活用し、支援内容のさらなる充実を図る。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	引き続き、専門家と連携したセミナーや個別相談会を積極的に実施すると共に、専門家による支援へ職員が同行し、実践的な支援ノウハウや課題解決手法を習得する。また、習得した知識や支援事例を職員間で共有することにより、組織全体の支援力向上を図り、小規模事業者の多様化・高度化する経営課題に対して、より質の高い伴走支援を実施していく。		
2. 経営指導員等の資質向上等に関すること												
研修会等への派遣	—	経2 補2 記2	経2 補2 記2	経2 補2 記2	経2 補2 記2	経2 補2 記2	経5 補2 記2	A	実施内容 （補助金活用含む）	北海道商工会連合会、中小企業大学校等が開催する経営指導員等を対象とした各種研修会へ積極的に参加し、経営支援、事業計画策定、補助金支援、DX推進、金融支援など、小規模事業者支援に必要な知識や支援手法の習得を図った。	—	
									もたらされた 効果や課題	研修で習得した知識や支援ノウハウを日常の経営相談や伴走型支援に活用することで、職員の支援能力及び課題解決力の向上を図ることができた。また、最新の制度改正や支援施策を迅速に事業者支援へ反映することができ、支援の質の向上に繋がった。今後も変化する経営環境や支援制度に対応するため、継続的な資質向上が必要である。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	引き続き、北海道商工会連合会や中小企業大学校等が実施する各種研修会へ積極的に参加し、職員一人ひとりの専門知識や支援スキルの向上を図る。また、研修で得た知識や支援事例を職員間で共有し、組織全体の支援力向上に繋げることで、小規模事業者に対する伴走型支援の充実を図る。		
職員会議の実施	—	50回	50回	50回	50回	50回	50回	A	実施内容 （補助金活用含む）	毎週1回、職員会議を開催し、巡回訪問や窓口相談の対応状況、経営課題を抱える事業者への支援内容、補助金申請支援や各種事業の進捗状況について情報共有を行うと共に、今後の支援方針について協議した。	—	
									もたらされた 効果や課題	巡回訪問や窓口相談等で得られた情報を職員間で共有することで、事業者の経営課題を組織全体で把握し、一貫性のある伴走型支援を実施することができた。また、支援状況や課題を共有することで、迅速かつ円滑な支援体制の構築に繋がった。今後は、情報共有の質をさらに高め、より効果的な支援体制の強化を図る必要がある。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	引き続き定期的な職員会議を開催するとともに、支援カルテ等を適切に整理・活用し、事業者の支援状況や経営課題を職員間でリアルタイムに共有できる体制を構築する。また、支援事例やノウハウの共有を推進し、組織全体の支援力向上と伴走型支援の充実を図る。		
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること												
経営発達支援計画に係 る会議の開催	—	1回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容 （補助金活用含む）	外部有識者を含む総務委員会を開催し、経営発達支援計画に基づく令和7年度事業の実施状況及び令和6年度事業の実績・評価について報告を行うとともに、事業の成果や課題、今後の取組について委員から意見・助言をいただいた。	—	
									もたらされた 効果や課題	外部有識者による客観的な視点から事業内容や成果について評価・助言を受けることで、経営発達支援事業の実施状況や課題を整理し、今後の支援方針や事業改善の方向性を明確にすることができた。また、PDCAサイクルに基づく事業の検証・改善を図ることで、より効果的な伴走型支援の実施に繋げることができた。		
									今後の対応等 （補助金活用含む）	今後も年1回、外部有識者を交えた会議を開催し、経営発達支援計画の実施状況について評価・検証を行うとともに、委員からの意見・助言を事業へ反映し、PDCAサイクルに基づく継続的な改善を図る。また、目標達成に向けた事業内容や支援手法の見直しを適宜行い、支援の実効性向上に努める。		